

経済産業省  
大臣官房福島復興推進グループ総合調整室  
原子力被災者生活支援チーム 御中

令和4年度 内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業

# 福島浜通り映像・芸術文化プロジェクトの 本格化に向けた調査事業

## 調査報告書

PwCあらた有限責任監査法人  
2023年3月31日



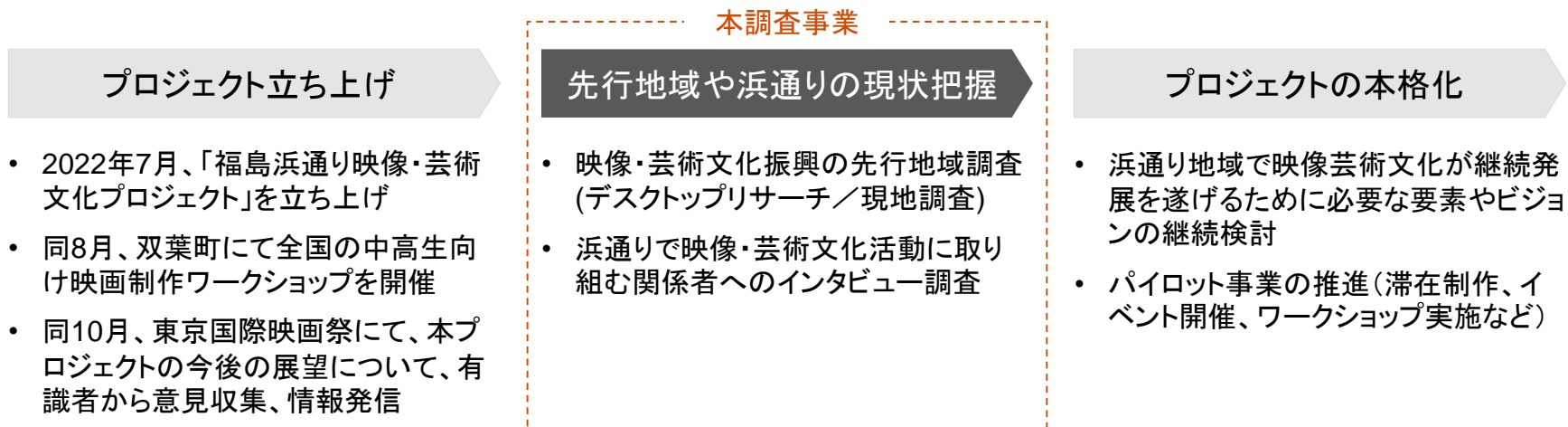
# 本調査事業の位置づけ

浜通り映像・芸術文化プロジェクトの本格化に向けた、地域内外の現状把握が目的。

## 事業の背景

- ・ 福島県浜通りでは、企業誘致やなりわいの再建など、企業活動を中心とした支援が着々と推進されている。
- ・ 一方、今後、住民の帰還や新たな人口の呼び込みが期待される原子力被災地域では、「ふるさとに戻りたい」、「この地域に行ってみたい」と思えるような魅力あるまちづくりなど、従来とは異なるアプローチが求められている。
- ・ そこで経済産業省では2022年7月に、「福島浜通り映像・芸術文化プロジェクト」を立ち上げ、映像や文化芸術を通じた地域活性化の可能性について、検討・実行準備を進めている。

## 本調査事業の位置づけ



# 目次

1. 先行地域調査
2. 浜通り関係者調査

# 調査の枠組み

映像芸術文化振興のもたらす4つの取組効果に着目して、先行地域を調査した。

## 映像芸術文化振興の直接的な取組効果

### 創造してもらう

### 消費してもらう

地域内向け



#### 地域の創造性向上

- 例：
- ・ 地域でのデザイナー育成
  - ・ 学校でのアーティストによる授業



#### 住民の活力向上

- 例：
- ・ 住民向けイベント(映画上映会など)
  - ・ 住民向け施設の整備(図書館など)

地域外向け



#### 製作者の増加

- 例：
- ・ Artist in residence、制作環境整備
  - ・ フィルムコミッション、ロケ地誘致



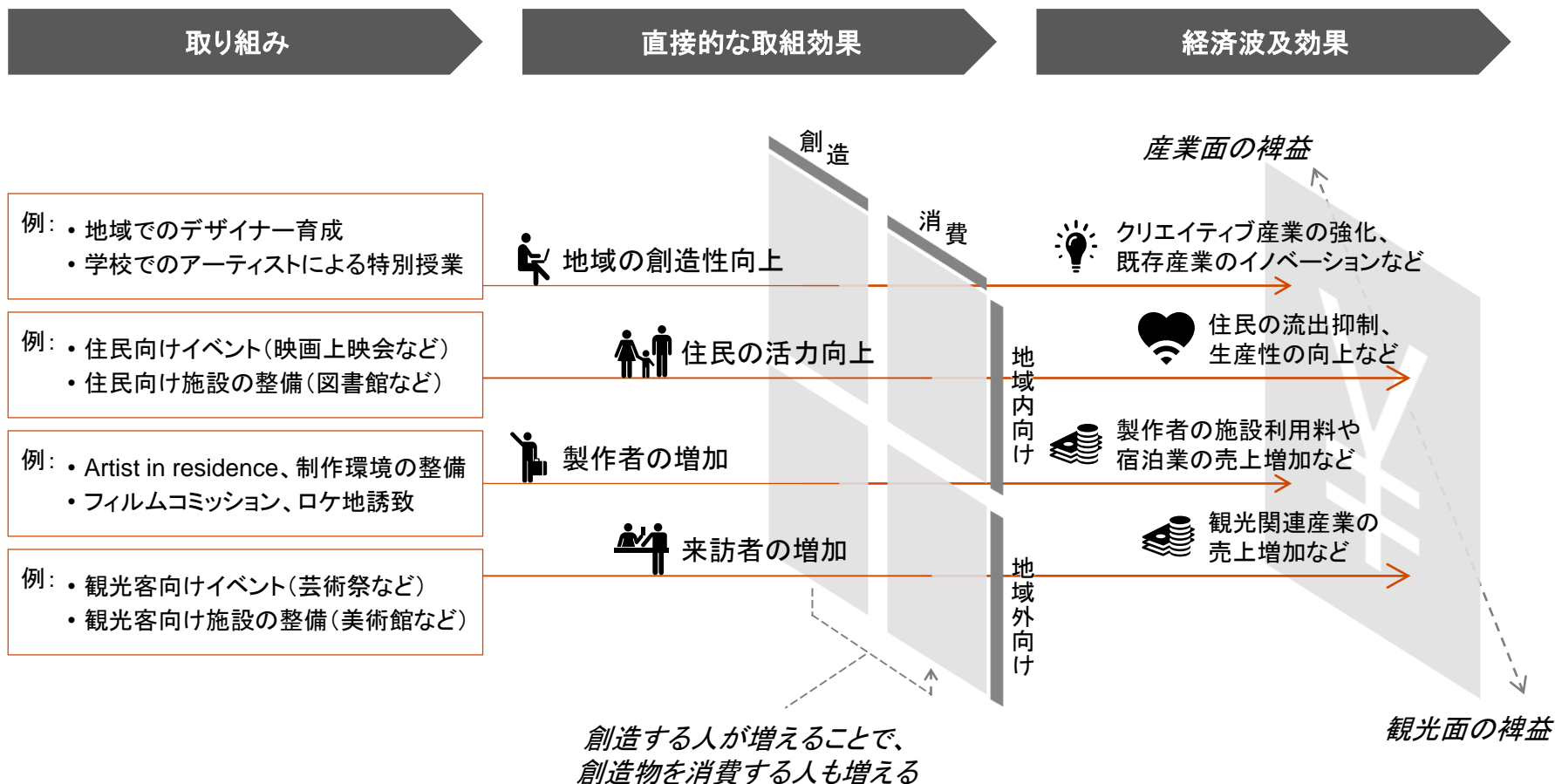
#### 来訪者の増加

- 例：
- ・ 観光客向けイベント(芸術祭など)
  - ・ 観光客向け施設(美術館など)

# 【参考】映像芸術文化振興の全体像

映像芸術文化振興を通じて、将来的には産業面・観光面の経済波及効果が生まれる。

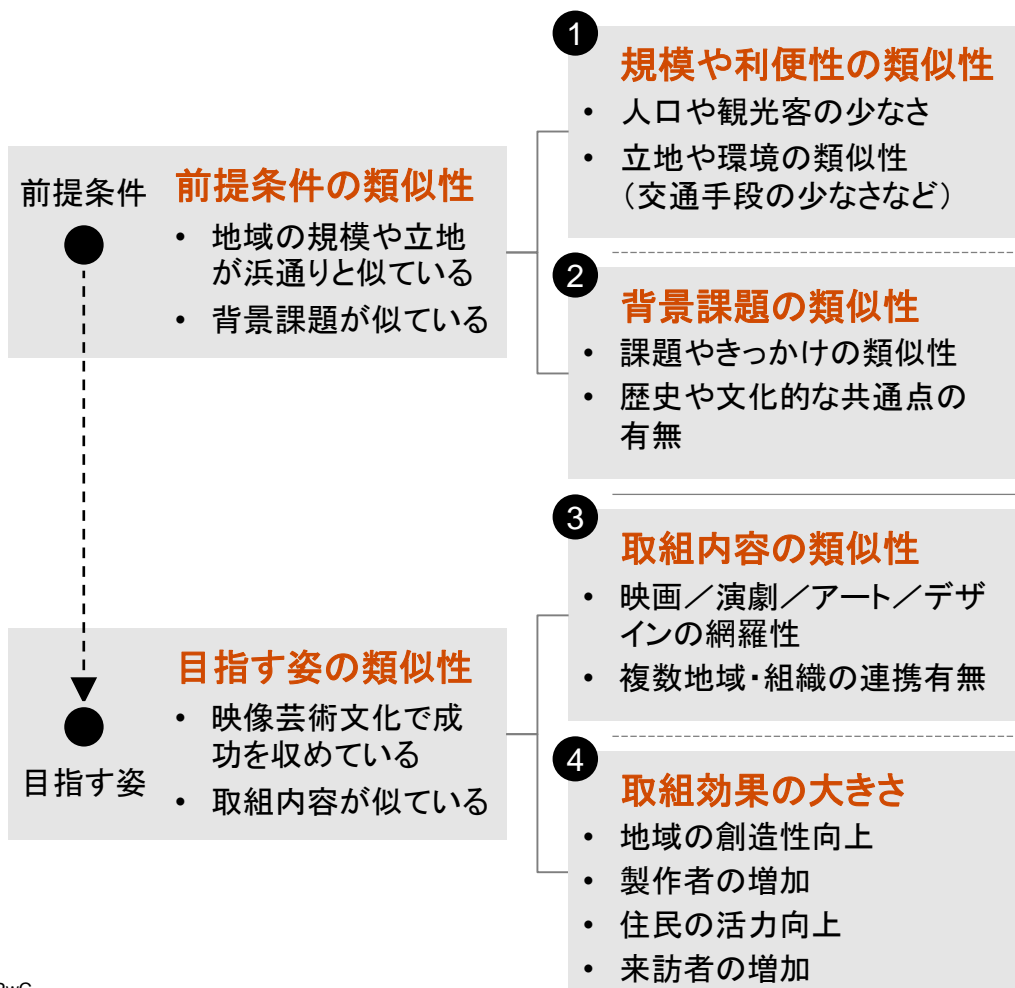
※本調査では直接的な取組効果に着目して事例を調査



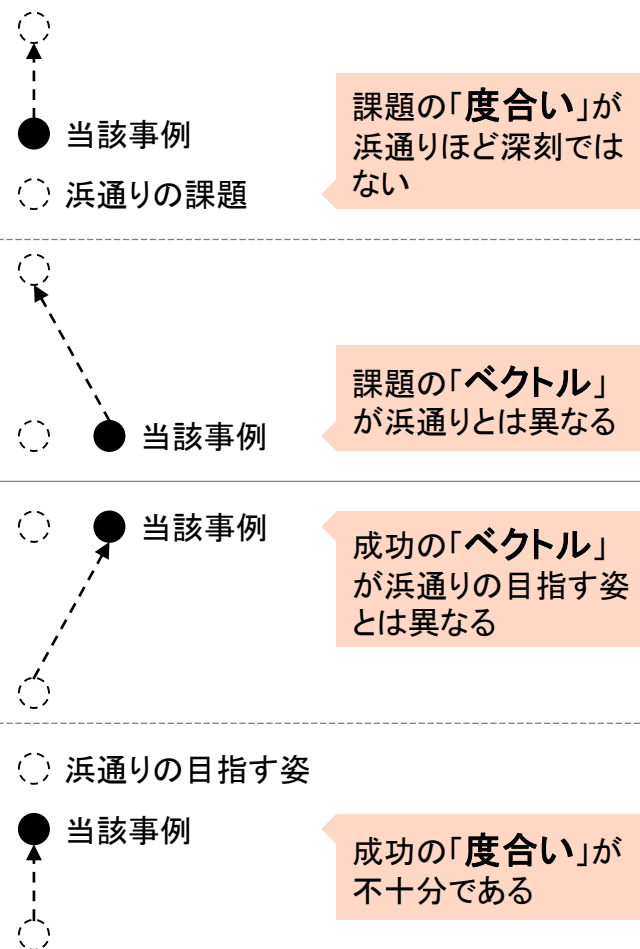
# 調査対象事例の選び方

映像芸術文化振興に取り組む前の「前提」と、取り組み「内容・効果」について、それぞれ「度合い」と「ベクトル」という観点で分解した4つの観点で事例を選定。

## 事例選定の観点



## 対象外となる場合のイメージ



# 選定方法の詳細

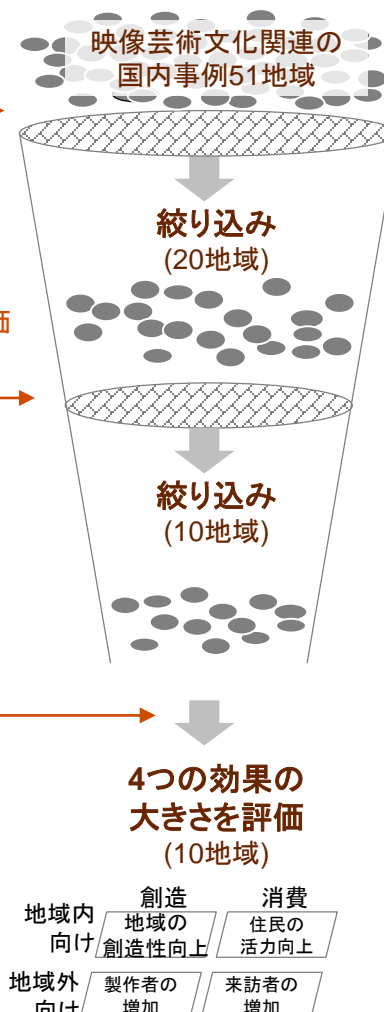
定量→定性の2段階で絞り込み、最後に4つの取組効果の大きさを評価。

## 事例選定の観点

## 具体的な指標

前提条件の類似性	1 規模や利便性の類似性	人口の少なさ 観光客の少なさ 交通アクセスの悪さ	・取組当初の定住人口 ・取組当初の観光入込客数 ・三大都市圏(東名阪)いずれかの最適ルートでの所要時間	定量評価 ①
	2 背景課題の類似性	負のイメージからの脱却 地域基幹産業の衰退 自然災害からの復興	・工業汚染・治安悪化などの課題有無 ・特産品や炭鉱などの産業衰退有無 ・地震・噴火などの背景課題の有無	
目指す姿の類似性	3 取組内容の類似性	取組の網羅性 映画 演劇 アート デザイン 複数地域の巻き込み 地元住民の巻き込み	・映画上映イベント、ロケ誘致 ・演劇イベント、コンクール開催 ・芸術祭、作品展示、滞在制作 ・各種デザイン、デザイナー育成 ・地域横断的な取り組み ・住民による主体的な企画運営 ・住民による制作活動	定性評価 ②③
	4 取組効果の大きさ	地域の創造性向上※ 製作者の増加 住民の活力向上 来訪者の増加	・30代女性比率の増減率 ・米国人比率の増減率 ・芸術関連職種比率の増減率 ・定住人口の増減率 ・観光入込客数の増減率	

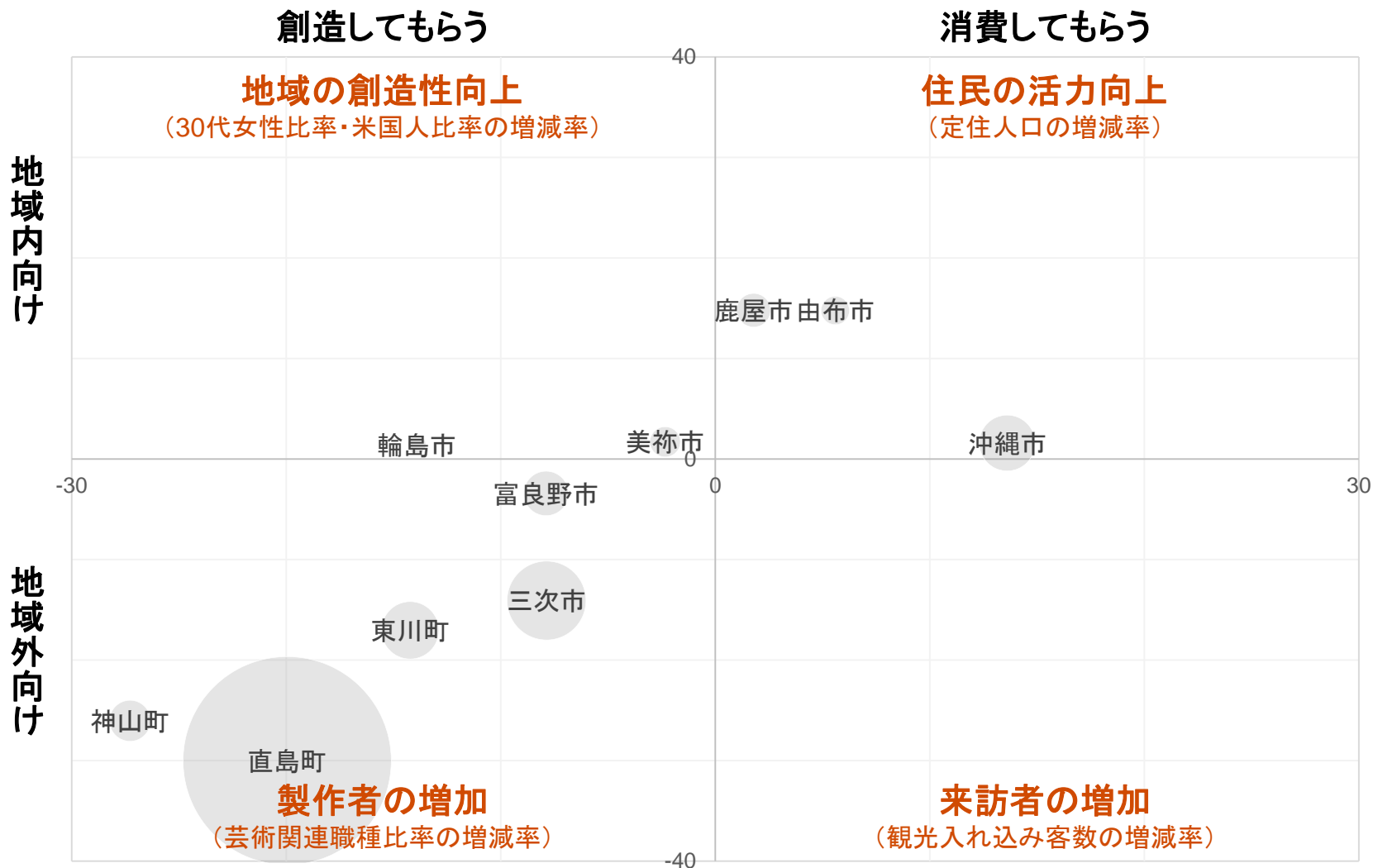
## 選定イメージ



※国内全ての市区町村の創造性を評価できる指標がないため、「創造都市INDEX (<https://archive.issueplusdesign.jp/project/sozotoshi/1124>)」と関連の強かった指標(30代女性比率と米国人比率)で代替

# 選定された10地域(総合的な取組効果)

定量評価と定性評価(①②③)で選定した地域を、4つの取組効果ごとに定量化。  
最も成功しているのは(バブルが大きいのは)直島町。次いで三次市・東川町・沖縄市。





# 選定された10地域(4象限ごとの取組効果)

4象限ごとに見ると、例えば直島町は地域内よりも地域外の消費が多いことが分かる。

## 代表的取組み 市町村

1位			
瀬戸内国際芸術祭、直島町 ベネッセアートサイト など		創造	消費
	地域内向け	77.3	30.4
	地域外向け	80.4	87.3

2位			
灰塚アースワーク プロジェクト	三次市 など	創造	消費
	地域内向け	53.9	45.4
	地域外向け	67.3	60.1

3位			
東川町国際写真 フェスティバル、 写真甲子園	東川町	創造	消費
	地域内向け	45.5	43.9
	地域外向け	75.2	48.3

4位			
スタジオ解放区、 コザ銀天大学	沖縄市	創造	消費
	地域内向け	40.4	67.0
	地域外向け	51.8	52.4

5位			
富良野演劇工場、 富良野塾	富良野市	創造	消費
	地域内向け	53.8	43.9
	地域外向け	55.2	49.4

※表中数値は、各評価指標の偏差値平均

## 代表的取組み 市町村

6位			
神山 Artist In Residence	神山町	創造	消費
	地域内向け	46.6	26.8
	地域外向け	80.1	45.4

7位			
柳谷集落(やねだん) 鹿屋市 迎賓館事業		創造	消費
	地域内向け	55.2	55.2
	地域外向け	38.6	42.2

8位			
秋吉台国際芸術村	美祢市	創造	消費
	地域内向け	50.9	44.5
	地域外向け	45.1	46.8

9位			
湯布院映画祭	由布市	創造	消費
	地域内向け	51.2	56.0
	地域外向け	35.6	42.0

10位			
NPO法人 輪島土蔵文化 研究会	輪島市	創造	消費
	地域内向け	50.1	35.7
	地域外向け	48.2	34.8

# 現地調査対象

最も取組効果の大きい直島町と、Artist In Residenceの先進地域である神山町を訪問。  
また比較的最近に取組みを開始した事例として、上記地域と地理的に近い淡路市も訪問。

順位	代表的取組み	市町村	分野	取組み概要(浜通りとの共通点)
1位	瀬戸内国際芸術祭	直島町 など	アート／ デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>負のイメージ(工業汚染)からの脱却</li> <li>複数自治体地域にわたる広域での取組み</li> </ul>
2位	灰塚アースワーク プロジェクト	三次市 など	アート	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境・景観変化(ダム建設)に伴う新しい環境・文化の創造(3つの町にわたる地域)</li> </ul>
3位	東川町国際写真フェス ティバル／写真甲子園	東川町	アート	<ul style="list-style-type: none"> <li>「写真の町」という新しく独自の地域文化の創造</li> <li>市民の制作・創造的な活動の支援・促進</li> </ul>
4位	スタジオ解放区 ／コザ銀天大学	沖縄市	アート	<ul style="list-style-type: none"> <li>アートを通じた地域のつながりや文化、記憶の継承</li> </ul>
5位	富良野演劇工場 ／富良野塾	富良野市	演劇	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民芸術活動支援による地域住民の活力・創造性向上 (「演劇を通じた心豊かなまちづくり」)</li> </ul>
6位	神山 Artist In Residence	神山町	アート／ デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元住民による制作参加、制作支援</li> <li>クリエイティブな人材の流入や企業誘致</li> </ul>
7位	柳谷集落迎賓館事業	鹿屋市	アート	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民主導、自主財源によるアーティストインレジデンス</li> </ul>
8位	秋吉台国際芸術村	美祢市	演劇／ アート	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手芸術家の創作・発表支援の他に、住民向けに 創造の喜びを体験できるプログラムを実施</li> </ul>
9位	湯布院映画祭	由布市	映画	<ul style="list-style-type: none"> <li>別途、地元向け文化、教育、記録の映画祭開催</li> <li>全員ボランティアによる実行委員会形式</li> </ul>
10位	NPO法人輪島土蔵文化 研究会	輪島市	アート／ デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震被害からの伝統建築(土蔵)の復興や建築技術の伝承を通じた新たなまちづくり・魅力創出</li> </ul>
⋮				
38位	AWAJI ART CIRCUS／ 淡路島アートフェスティバル	淡路市 など	演劇／ アート	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞在する海外アーティストと市民の交流促進、市民の芸術・文化への接点創出</li> </ul>

# 瀬戸内国際芸術祭(直島町など)

「瀬戸内の里海・里山の隠れた資源の発掘と発信」を重点テーマに、瀬戸内固有の景観や歴史・文化、建築を活用したアート表現(サイトスペシフィックワーク)を展開している。

## 事例概要

目的 ・ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>瀬戸内の豊かさを取り戻すことがねらい<ul style="list-style-type: none"><li>「海の復権」をテーマに掲げ、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内が地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指す</li></ul></li></ul>
取組み 内容	<ul style="list-style-type: none"><li>瀬戸内海12の島々と2つの港周辺を舞台に春/夏/秋の3会期(100日間前後)で開催<ul style="list-style-type: none"><li>12の島々:直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島、本島、高見島、栗島、伊吹島</li><li>2つの港:高松港、宇野港</li></ul></li></ul>
効果 ・成果	<ul style="list-style-type: none"><li>集客効果<ul style="list-style-type: none"><li>2022年開催:72万人</li><li>2019年開催:118万人</li></ul></li><li>経済波及効果<ul style="list-style-type: none"><li>2022年開催:103億円</li><li>2019年開催:180億円</li></ul></li></ul>

## 浜通りへの参考点

- ・ **サイトスペシフィックワーク(瀬戸内固有の景観や歴史・文化を活用したアート表現)**
  - 「瀬戸内の里海・里山の隠れた資源の発掘と発信」を重点テーマにアーティストと地域が連携した作品を展示
  - 「食」も地域発信の重点テーマとして設定
- ・ **自治体トップ参加の実行委員会形式と、民間による継続的な運営体制**
  - 県、市、町のトップが実行委員会に連なる自治体全面バックアップ体制
  - 加え、福武財団やNPO瀬戸内こえびネットワーク(ボランティアスタッフの募集・管理など)などの民間による継続的な運営組織

## 具体事例



住民参加によるのれんプロジェクト



瀬戸内「」資料館(地域のアーカイブ施設)

# 神山 Artist In Residence(神山町)

アーティスト・イン・レジデンス(AIR)を起点として「創造的過疎」への転換を狙っている。  
AIRを起点に、企業のサテライトオフィス誘致や高専開校等を展開している。

## 事例概要

目的 ・ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>「創造的過疎」の実現<ul style="list-style-type: none"><li>創造的な人材(アーティスト、クリエイター、起業家等)を外部から引き寄せる</li><li>AIRをきっかけとして、神山町への関心を高めてもらえることを期待</li></ul></li></ul>
取組み 内容	<ul style="list-style-type: none"><li>国内外からの招聘アーティストが神山町に滞在し作品を制作、それらの作品展覧会を実施</li><li>実行委員会として宿泊施設やアトリエ等をアーティストへ提供、住民らによる制作交流もあり</li><li>「神山プロジェクト」の一環であり、当該AIRを起点として、複数事業への展開が行われている</li></ul>
効果 ・成果	<ul style="list-style-type: none"><li>招聘アーティストについて、毎年国内外から約100名の応募</li><li>AIRを起点とした、NPO法人の異なる事業による移住者の増加<ul style="list-style-type: none"><li>IT企業のサテライトオフィス誘致、従業員移住</li><li>高専開校による学生の移住(2023年4月予定)</li></ul></li></ul>

## 浜通りへの参考点

- 民間(NPO法人)主導の実行委員会体制
  - 開始当初は神山町役場内に実行委員会があったが、軌道に乗った後に、NPO法人化して独立
  - 企画・運営は、NPO主体に取り組む
- AIRを起点とした、他事業、産業振興への展開
  - 町の創造的過疎の実現に向けて、「サテライトオフィス誘致」「コワーキングスペース設置」「高専開校」等の産学面への展開もNPOが推進している
  - AIRを起点に複数の事業を展開することで、相乗効果を創出や、資金面の確保を目指す

## 具体事例



招聘アーティストの制作の様子  
(制作交流として地元住民も作品制作に協力)



劇場寄井座  
(昭和35年に閉鎖した劇場をアトリエとして再生)

出所: 公式Webサイト、地元メディア記事、実行委員会発行文書などの公開情報、現地視察時撮影写真など

# AWAJI ART CIRCUS(淡路市など)

観光客増加だけでなく、地元住民が芸術文化と交流することも重点に取り組む。  
行政連携した実行委員会運営により、活動を推進している。

## 事例概要

### 目的 ・ねらい

- 交流人口増加、消費誘発、淡路島の文化発展、淡路島の魅力の国内外発信を目的とし、豊かな場づくりやコンテンツ発信に重きを置いている
- 中でも特に、以下の2点を重視している
  - 芸術文化と地域間での交流を増やすこと
  - フェスティバルを通し、地元住民が地域に魅力を感じ、誇りを持つこと

### 取組み 内容

- 淡路島を中心に年に1ヵ月または複数回に分けて開催。国外からもアーティストが集結し、パフォーマンスや小中学校でのワークショップ、大学や企業とのコラボレーション、アーティスト・イン・レジデンス事業等を実施

### 効果 ・成果

- 2016年:50,000人(30日間)

## 浜通りへの参考点

- **官民連携による実行委員会形式の採用**
  - 島内の3市長を理事長にして、全島エリアを対象にした開催を推進
  - 行政と連携した取り組みにより、地域との連携や認知度向上につなげている
- **アーティストと地元住民との積極的な交流**
  - 地域とのコラボレーションや小学生との交流に積極的に取り組む
  - 地域の歴史をコンテンツとした演劇も開催

## 具体事例



ストリートパフォーマンス



常設劇場でのパフォーマンス

# 目次

1. 先行地域調査

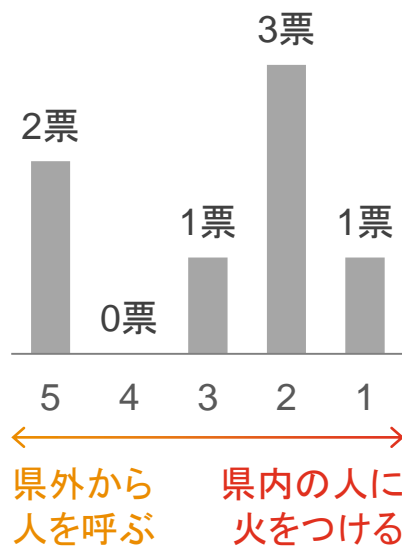
2. 浜通り関係者調査



# 浜通り関係者へのインタビュー結果

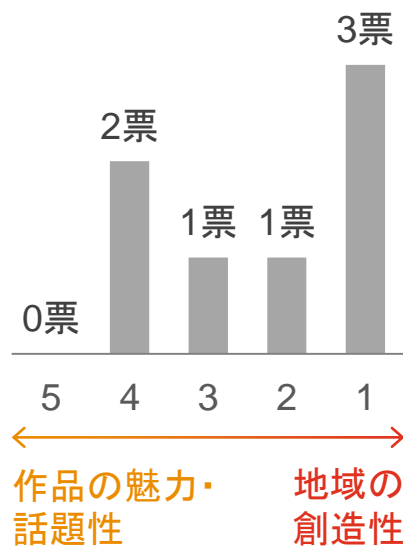
浜通りで映像芸術文化関連の活動をするプレイヤーへインタビューを実施。  
「重視する点」には意見の相違が見られたが、「目指す姿」は本質的には共通の印象。

## 重視する点



### 主なコメント

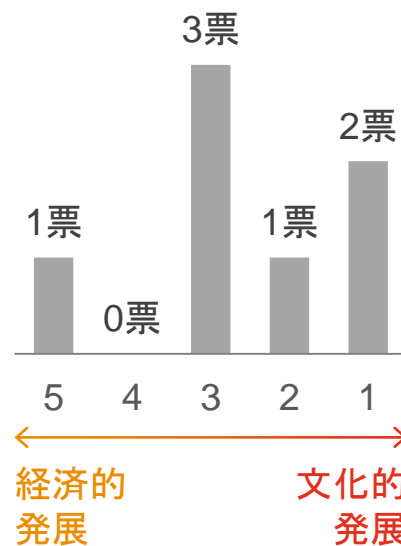
- ・ 外から注目が集まることで地域への愛着が醸成される
- ・ 地元で楽しめるエンタメが少ない



### 主なコメント

- ・ 作品を見ることで元気になって欲しい
- ・ 究極的には地域の人が変わっていくことが大事

## 目指す姿



### 主なコメント

- ・ 町が元気になるには収益や戦略が必要
- ・ 理想は経済発展だがまだ難しい
- ・ 文化資本が経済的発展を生む



### 主なコメント

- ・ 地域ごとの特徴や多様性は必須。その上でプラットフォームは連携すべき

# 浜通り関係者からあがった声

## アーティストの呼び込み

### 滞在施設を整備したい

- ・アーティストに長期滞在してもらう場合、宿泊施設の少なさが課題。
- ・都会のアーティストから「広いアトリエが欲しい」という声があがっている。
- ・宿泊機能付きのアトリエを整備したい。

### アーティストの人脈が欲しい

- ・浜通りだけで活動していると、外部のアーティストとの人脈が限られてしまう。
- ・アーティストを呼び込む担当が1人だけだと、特定のコミュニティに偏ってしまう。

### アーティスト選びが難しい

- ・地域に溶け込めるアーティストか否かの判断が難しい。業界事情に詳しいキュレーターなどに助言をして欲しい。

## 活動の方向性

### テーマ設定が難しい

- ・外から見ると浜通りは震災や復興のイメージが強いが、個人的には震災の辛い記憶を呼び戻すような作品は避けたい。
- ・外の人は非日常を取り上げたいが、住民は日常を求めるというギャップがある。
- ・地域の魅力を掘り起こす作品の方が、地域の人は興味を持ってくれる。

### アートの裾野を広げたい

- ・アートだけにフォーカスするのではなく、異分野とも連携した総合的な取組みが重要。
- ・もっとフランクかつカジュアルなものとして、アートに触れてもらう工夫をしたい。

### 財源確保が難しい

- ・アーティストは地域で収入を得る手段がないため長期滞在のハードルは高い。
- ・補助金の制約で作品閲覧を有償化できない場合がある。
- ・無料参加にすると当日のキャンセルも増えて運営が大変。
- ・作品の制作過程はなかなか見れない。制作過程でマネタイズできるのではないかな。

## 担い手・体制

### 若者を育てたい

- ・浜通りは「若者がやりたいことをできる場所」になってほしい。
- ・大人よりも若者の方が感性が優れている。大人は枠組みや環境整備に専念すべき。

### 既存の取組みを育てたい

- ・数少ない担い手や既存の取組みをしっかりと育てることがまずは大事。新しく何かをはじめるのは、その後に考えるべき。
- ・取組みを繋げて大きくしたい。

### 自治体と連携したい

- ・アートは産業・観光・教育・文化など様々な裨益をもたらすため、公共事業と連携すべき。
- ・自治体との連携や役割分担を進める上で、首長に理解してもらうことも必要。
- ・浜通りや12市町村の横断的な行政機関がないため、面的な意思決定が困難。

## 発表・評価

### 公共交通網が集客面の課題

- ・浜通りでの作品発表においてネックなのは、交通手段や都心からのアクセス。
- ・小さな取組みの連続だと常時インフラが必要となる。地域が連携して複合イベントを期間限定でやる方が有効。(芸術祭など)

### アーティストを適切に評価してあげたい

- ・アーティストが評価されることも重要。適切な評価者に評価される環境が必要。
- ・アーティストの表現活動を尊重し、地域と対等な関係であることは前提。
- ・メディアが都合の良い解釈をして誤った報道をした結果、アーティストが傷ついたり、活動のモチベーションが下がることもある。

### 質的な評価軸も大切

- ・イベントをきっかけに、震災後は避けていた場所にまた足を運ぶきっかけになったと話してくれた方がいた。経済面だけでなく、こうした質的な評価も大切。



# 浜通りにおける代表的な課題

環境整備から滞在～発表に至る各ステップにおいて、様々な課題が抽出された。

活動の流れ		代表的な課題	対応策(例)
環境整備	制作環境整備	十分な面積や必要設備のあるアトリエが少ない	アーティスト・イン・レジデンスの拠点整備 (空き家リノベーションなど)
	生活環境整備	長期滞在できる宿泊機能付きアトリエが少ない	
滞在	声掛け	浜通り側とアーティストとの人脈が限られる	各地のアーティストと繋がる場作り
	選定	地域に溶け込める人物か否かの判断が難しい	プロキュレーターによる評価・選定のサポート
活動	テーマ設定	外の人は非日常、地元の人には日常を期待	外向けと中向けで異なるテーマを共存 (浜通り全体での統一的なディレクションを避ける)
	財源の確保	制作費の補助以外に収入を得る手段がない (特に長期滞在制作の場合) 補助金の制約で閲覧を有償化できない場合あり (無料だと当日のキャンセルも多い)	アーティストの副業機会(施設運営、飲食業など) 製作体験費など、制作過程で収益を得る仕組み (当日の参加者側のエンゲージも上がる)
	人員の確保	制作のサポートスタッフや各分野の専門家不足	副業人材やインターン人材のマッチング支援
	自治体の協力	映像芸術文化振興に対する関心	自治体を巻き込んだ検討会の組成
	住民参加	アート制作や創造的活動への住民の関心	アート制作通じて住民と接点を持てる仕掛け (例:住民と共同制作、住民に使ってもらえる作品づくり)
発表	集客	参加者の偏り(アート好きな方以外が来ない)	アート以外の場で住民と接点を持てる仕掛け (例:学校の特別講師で滞在中のアーティストを派遣)
	来訪	公共交通手段など、インフラ面の障壁が多い	作品発表時期を揃えて期間限定で交通網を整備 (参考:原町では野馬追の時期だけシャトルバスを整備)
	発表・評価	箔が付きにくい／メディアによる趣旨と異なる報道	広報PRの支援体制を整備

## 【本資料に係る留意事項】

- 本資料は経済産業省委託事業「令和4年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（福島浜通り映像・芸術文化プロジェクトの本格化に向けた調査事業）」の委託者向けの成果報告書として作成されたものであり、第三者が利用することは意図しておりません。
- 当法人の書面による事前承諾なく本報告書およびその内容について第三者に配布または開示することはできません。
- 当法人は、本事業以外の目的で利用された場合や第三者に本報告書が開示された場合には、何ら責任を負いません。
- 当法人の作業は、本資料に記載された特定の手続や分析に限定されており、作成時点（表紙記載）までに入手した情報のみに基づいて実施しております。当該日付以降に環境や状況の変化があったとしても、本資料に記載されている内容には反映されておりません。
- 本業務は日本公認会計士協会その他基準設定機関によって制定された基準に従って監査、レビュー、証明、その他の保証をしたものではありません。
- 本業務の内容に将来事象に関するものが含まれている場合には、その将来事象の達成可能性や信頼性を保証するものではありません。
- 当法人が本資料を提供後において、本資料の作成者名義を当法人から変更することなく、本資料内容を許可なく変更することや変更後の資料を利用することはできません。

pwc.com/jp

© 2023 PricewaterhouseCoopers Aarata LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see [www.pwc.com/strucrure](http://www.pwc.com/strucrure) for further details.